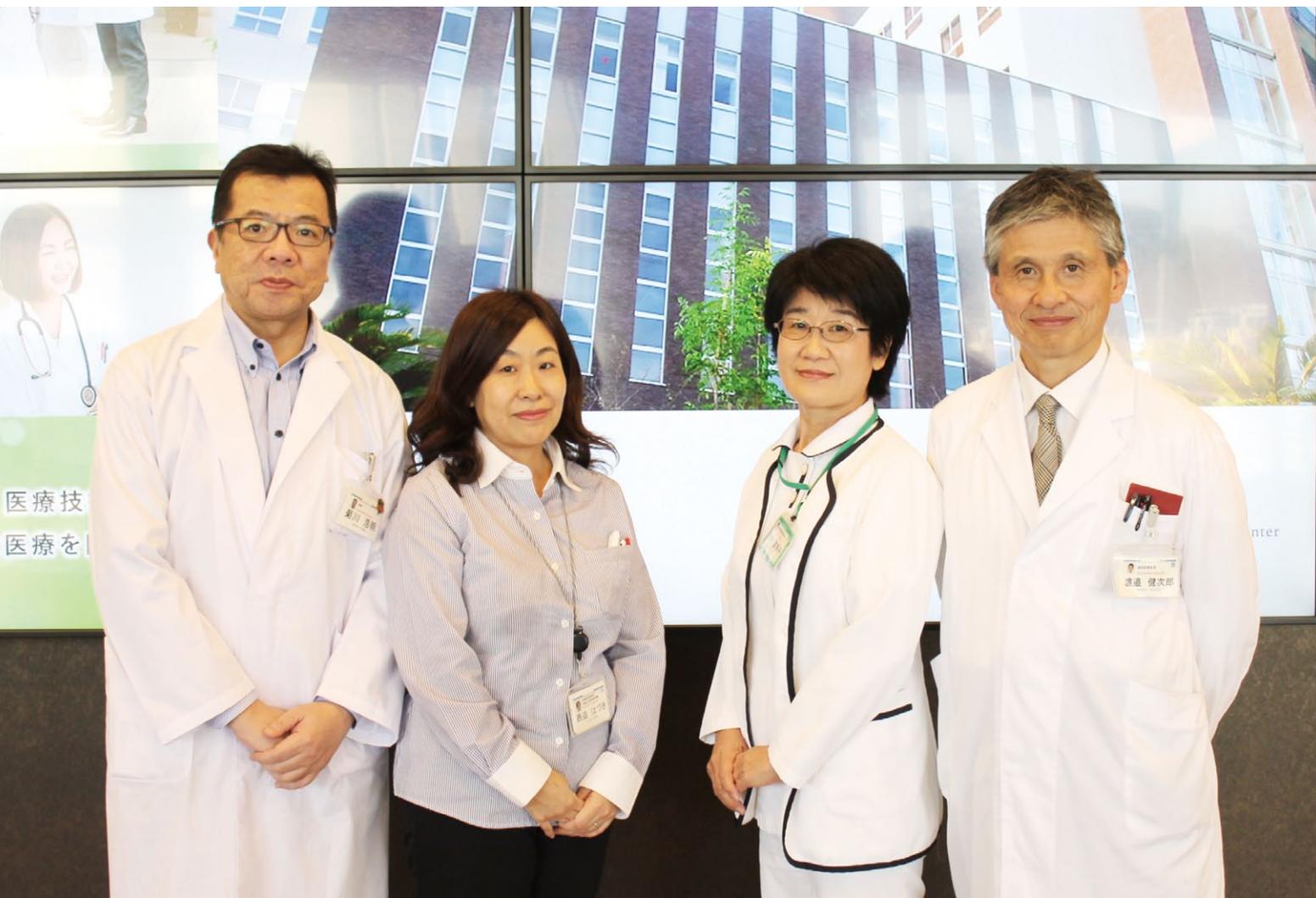


国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



写真撮影 江角 誠

【特集】

りんどうネットワーク

- VOICE
- くまびょう TOPICS
- 新任職員紹介
- いま、何が研究されているか 治験センター
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供 | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進 | 5. 国際医療協力の推進 |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営 |

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

12月の電子カルテリプレイスに伴い

りんどうネットワークの情報が 見やすくなりました。

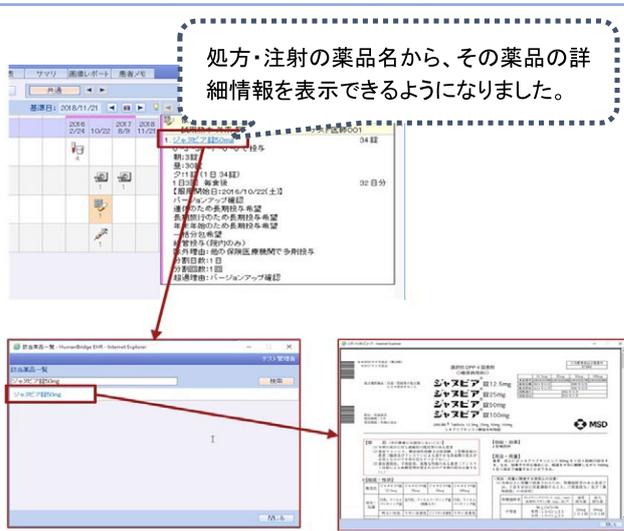
BEFORE



処方・注射の詳細情報を表示する機能がありませんでした。

院外からのカルテ参照時の薬品（処方・注射）からその薬品の詳細情報を表示できるようになりました。

AFTER



処方・注射の薬品名から、その薬品の詳細情報を表示できるようになりました。

院外からのカルテ参照時の薬品（処方・注射）からその薬品の詳細情報を表示できるようになりました。



院外からカルテ一覧を開いた際に最近の来院や入退院、カルテ記載を行った患者をアイコンで表し、一覧上の上部に表示するように対応しました。



来院や入退院、カルテ記載を行った患者をアイコンで表現します。

アイコン説明

- : 3日以内にイベントがあった患者
- : 7日以内にイベントがあった患者
- : 30日以内にイベントがあった患者
- : 30日以上イベントがない患者

院外処方箋

患者氏名: 1810-017

生年月日: 1992年01月01日

処方内容:

- グリブワン錠50mg (1日1錠)
- ジェヌビア錠50mg (1日1錠)
- スーグラ錠50mg (1日1錠)
- アムロジピン0082.5mg (1日1錠)
- ボグリボース0082.5mg (1日1錠)

検査値 (90日以内に測定のある検査値を表示しています。)

項目	WBC	Hesit	Hb	PLT	AST	ALT	Cre	edRFR	Tbil	Na	K	TP	Ca
検査日	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19	2018/10/19

身長: 165.0cm 体重: 75.00kg

測定日: 2018/04/05 測定日: 2018/04/05

体表面積: 1.824 m²

医師から薬剤薬局へのコメント欄

薬剤師からの返信欄

検査値の提供を希望されない方は切り取ることも可能です

検査値の基準値がQRコードで表示

処方箋に検査値が表示されるようになりました。調剤薬局においても、お薬などによる副作用の確認ができるよう工夫しました。

必要に応じて、担当医から調剤薬局薬剤師へコメント及び調剤薬局薬剤師から担当医へコメントでできる様式に変え、よりよい医療を提供できる様工夫しました。

患者様にお渡しする院外処方箋の
レイアウトも変更されました

VOICE

登録医の声

医法) 社団 順幸会
阿蘇立野病院

理事長・院長 上村 晋一



◆貴院のアピールをお願いします

熊本地震から間もなく3年、阿蘇立野病院は1年半の休業を余儀なくされましたが全面復旧して1年余になります。この稀有なる経験を生かして心機一転、南阿蘇の住民を「治す」だけでなく「治し支える」在宅支援病院を新たに構築したいと皆で燃えています。昨年の9月から電子カルテを導入し、未来の希望に輝く「ご当地」病院として共に働いてもらえる仲間を募集しているところです。震災前に劣らない「ぬくもりと安心の医療」を提供すべく頑張ります。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

当院周囲には車で30分圏内に9つのゴルフ場があり、下手ではありますが悠遊楽々と芝生を耕しています。一昨年8月末に再開通した長陽大橋から左右に広がる健磐龍命(たけいわたつのみこと)が蹴破った立野峡谷の風景は、厳然たる自然と人類の英知の玄妙を同時に観察することができます。是非ここを通過して阿蘇の温泉、美味しい水や食物を楽しみに遊びに来てください。

◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

公私にわたり、大変お世話になっており心より感謝申し上げます。開放型病院連絡会は顔の見える関係の築けるとても有難い会合です。是非存続頂きたいと思っています。また、奥阿蘇の急患では大いに頼りにさせて頂いているドクヘリ等の救急搬送対応も今まで同様どうぞよろしくお願い申し上げます。

【診療科目】

内科、代謝内科、外科、整形外科、泌尿器科

【診療時間】

午前 9:00 ~ 12:30

午後 15:00 ~ 17:30

【休診日】

日曜日、祝日

【住所】

〒869-1401 阿蘇郡南阿蘇村立野 185-1

【TEL】

0967-68-0111

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話

096 - 353 - 6693

月～金(祝日を除く) AM 8:30 ~ PM 17:00



12月11日

「地域医療支援病院運営委員会」開催

16 時より開催されました。委員会には委員長の熊本市医師会会長園田先生をはじめ、外部委員 6 名の方々にご出席をいただき、高橋院長、園田委員長のご挨拶の後、事務局より紹介率・逆紹介率の実績などについて報告がありました。地域医療支援病院として承認を受け、16 年を迎えました。これも一重に地域の先生方のおかげと深く感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。



経営企画室長
前田 光一郎
Koichiro Maeda

第 2 回

11月26日～12月14日

「医療安全研修」開催



第 2 回『医療安全研修』が 11 月 26 日～ 12 月 14 日まで計 7 回行われ、996 名（参加率 83%）の方が参加されました。今回は 2 つのテーマで『患者の暴力の対応』を川村精神看護専門看護師に、『情報セキュリティ』を福田管理課長に講義していただきました。参加者からは「日々の業務に活かせる内容だった」等の意見があり、患者様や医療スタッフの安全を守ることに繋がれば幸いです。

医療安全管理係長
堂園 千代子
Chiyoako Dozono

第 151 回

12月15日

「公開看護セミナー」開催

「身近にある臨床倫理を考える」というテーマで宮崎大学医学部社会医学講座 生命・医療倫理学分野教授の板井孝彦先生にご講演いただきました。「安楽死」と「尊厳死」の違い、DNAR をめぐる誤解と混乱について事例を用いながらの講義でした。今後、倫理的視点を考えながら患者さまへの医療が提供できるよう取り組んでいきたいと思われました。



5階南病棟 看護師
木村 綾子
Ryoko Kimura

12月8日

「公開肝臓病教室」開催



今年度で 10 回目となる公開肝臓病教室を開催いたしました。17 名の方に参加いただき、うち 9 名が肝炎ウイルスの検査を受けられました。杉消化器内科部長の挨拶で始まり、中田消化器内科医長、藤田主任薬剤師、管理栄養士の福永の 3 名が、それぞれの専門分野の視点で肝臓病にまつわる講演をいたしました。ウイルス検査では 1 名が陽性で、検査の重要性を再認識しました。アンケートでは半数以上の方から「役に立った」とのご意見をいただき、有意義な教室を開くことができました。アンケートで頂いたご意見等については、検討し、来年度に取り入れていきたいと思えます。

栄養士
福永 麻希
Maki Fukunaga

12月12日

平成 30 年度 第 2 回

「熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会」開催



平成 30 年度第 2 回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が 12 月 12 日（水）午後 7 時より、熊本医療センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本尚会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より高橋院長、大塚副院長、清川副院長、

渡邊統括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。宮本会長、高橋院長からのご挨拶の後、議事に入りました。まず中島部長から当院の歯科紹介率の実績について、次いで原田部長から当院の歯科救急医療について、中島部長より歯科関係の今年度と来年度に行われる講演会・セミナーの紹介がありました。最後に大塚副院長から、平成 30 年度第 2 回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が 2 月 23 日（土）午後 6 時 30 分より当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。その他、地域医療構想の中での在宅医療の在り方などの話題があり、熊本市歯科医師会と当病院とのさらなる連携を確認して閉会となりました。

歯科・口腔外科部長
中島 健
Takeshi Nakashima

「合同慰霊祭」開催

12月17日



平成 30 年度『合同慰霊祭』が執り行われました。本年は、平成 29 年 9 月～平成 30 年 8 月の 1 年間に当院でお亡くなりになられた患者様 707 柱が対象で、多くの病院職員の方々に参列を頂きました。式典は、高橋院長による追悼の辞の後、お亡くなりになられた故人に哀悼の意を表し、式典に参列した職員全員による献花が粛々と行われ、滞りなく終了できましたことに御礼申し上げます。

経営企画室長
前田 光一郎
Koichiro Maeda



診療支援部門より

12月18日

「二の丸がんサロンクリスマスコンサート」開催



二の丸がんサロン主催のトーンチャイムクリスマスコンサートが開催されました。がんサロンの紹介と治療を受けられる皆様に癒しの時間を提供する事を目的に開催しています。演奏ボランティア『美齡重（みれーじゅ）』の心温まる演奏に涙される方もおられ、がんサロンの方々からもとても良かったとお声を頂きました。

二の丸がんサロンは毎月第 1 金曜日に開催しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

地域医療連携室 医療社会事業専門員
三浦 由江
Yoshie Miura



年末年始の行事食

「年越しそば・おせち料理」提供

栄 養

熊本医療センター平成最後の年末年始行事食。大晦日の年越しそばに始まり、1月11日の鏡開きのおしるこまで年末年始の行事食をご提供いたしました。10月上旬から献立の見直し、試作を行い当日の盛り付けまでスタッフ全員で心と愛情を込め頑張りました。お味は、いかがだったでしょうか？

栄養管理室長
四元 有吏
Yuri Yotsumoto



12月31日（大晦日）……年越しそば



夕食（常食）



夕食（特食）

1月1日（元旦）……おせち料理



朝食（常食）



昼食（常食）



夕食（常食）

1月2日……おせち料理



いわし甘露煮：朝食（常食）



鯛の塩焼き：昼食（常食）

1月11日（鏡開き）……おしるこ



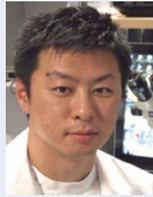
おかゆを固めておもち風にしました



新任職員紹介

脳神経外科

たけすえ よしひろ
武末 吉広



1月より勤務させて頂いております。5年ぶりに当院に戻って参りました。多くの患者様の健康に寄与しつつ、自身も成長できるようやる気に満ち満ちて頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

平成 30 年 11 月より デジタルサイネージを導入しました。 (ネットワーク化された電子看板)



正面玄関に設置されたデジタルサイネージ

開放型病院登録医療機関名や
外来担当医表・病院の基本理念・
各種お知らせなどを順次お知らせ
しています。

また、タッチパネルで各外来
へのMAPをプリントアウトできる
ようになっています。

シャトルバス発車時刻の3分前
にはアラームでお知らせもします。

ご来院の際はぜひご利用下さ
い。

平成 30 年度 第 2 回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成 31 年 2 月 23 日(土) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

場所：国立病院機構熊本医療センター(2階 地域医療研修センター)

－ 内容 －

(1) 開放型病院連絡会総会

1) 症例の呈示

「誤嚥性肺炎の予後因子としての不顕性誤嚥」(仮称)

歯科口腔外科部長

中島 健

「心肺停止患者に対する水素ガス吸入療法」(仮称)

救命救急センター長

原田 正公

2) 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長

渡邊健次郎

3) 紹介予約センターからのお知らせ

地域医療連携副室長

菊川 浩明

(2) 特別講演

「明日の医療の動向について」(仮称) 厚生労働省医政局 医療経営支援課長 樋口 浩久 先生

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501 内線 2311 (福田・毛利)

細菌検査担当技師との連携による治験実施計画書からの逸脱防止への取り組み

治験センター 正代 敦子

【はじめに】

感染症患者に対する抗菌薬治験において、細菌学的検査は有効性の副次的評価項目として重要です。血液検査は通常検体採取後数時間で結果が判明するのに対し、細菌学的検査は検体採取後、培養・菌の分離・同定に数日かかります。さらに治験では通常行っていない常在菌の培養や菌種名の同定など、細菌の提出までの条件が複雑であり(図1)、しばしば逸脱、ヒヤリ・ハットの要因となっています。通常、採取された検体から検査科の細菌検査担当技師(以下、技師)が培養・菌の分離・同定を実施しております。治験では、課題ごとに必要な菌の条件が異なるため、治験上必要な細菌を分別することが困難です。そのため、これまで治験では、しばしば必要のない検体を培養してしまう、必要な細菌を廃棄してしまう等の事例が発生しました(図2)。そこで、今回治験実施計画書からの抗菌薬治験での細菌培養の流れおよびチェックシートを兼ねた細菌検査一覧表(以下、一覧表)を治験課題ごとに作成しました。

計画書上必要な検査であることが分かるように、医師が細菌検査のオーダーをする際に「治験」のコメントを記載しました。さらに治験ミーティングに参加した技師確認のもと、治験全体の実施内容を記載した技師用の一覧表を作成しました(図3)。一覧表を用いて治験コーディネーター(以下、CRC)と技師で確認し、検体の採取から細菌の提出まで完了したことを確認しました。

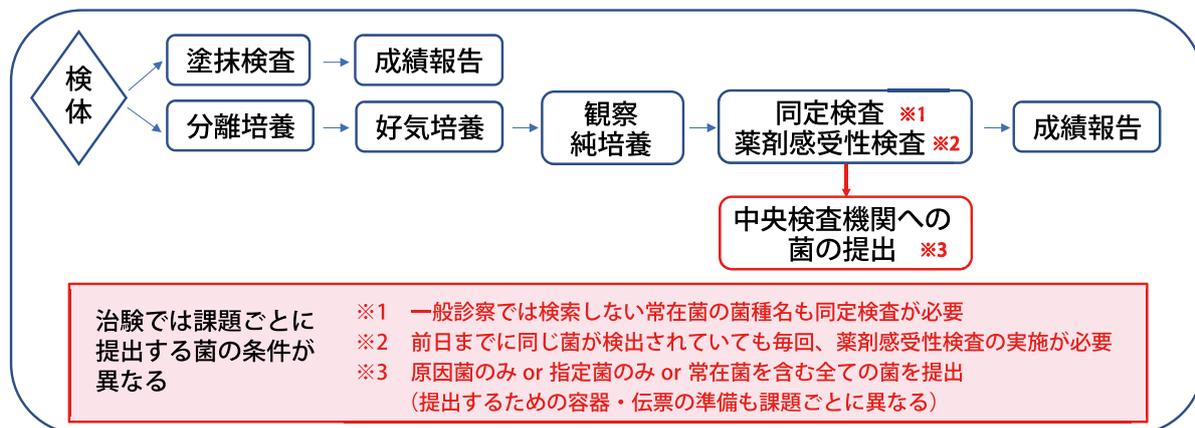
【結果・考察】

当院では抗菌薬の治験を複数実施しています。技師が治験ミーティングに参加することで治験の目的、細菌検査の手順についての理解が深まりました。また、オーダーコメントに「治験」と記載することで、提出された検体が治験の検体であることが分かるようになりました。抗菌薬治験症例が登録されると、CRCが一覧表を作成し、CRCと技師間で相互確認することにより、検体採取から提出までの実施状況が、正しく把握できるようになりました。一覧表を作成後、細菌検査における逸脱およびヒヤリ・ハットの事例は一件も起きていません。どの抗菌薬の治験でも、これらの取り組みを行うことにより逸脱がなく、情報を共有できるようになりました。今後この取り組みを継続し、逸脱防止に努めていきたいと考えます。

【方法】

技師にも治験ミーティングに参加してもらい、細菌検査における詳細な手順を、治験依頼者と直接確認しました。また、医師によってオーダーされた細菌検査が治験実施

<図1 細菌検査の流れ(赤字・赤囲みは治験特有の手順)>



<図2 当院の逸脱、ヒヤリ・ハット事例>

- ① 非原因菌で常在菌のため菌種名まで同定しなかった。
- ② 治療実施計画書上、必要のない検体の細菌を培養してしまった。
- ③ 中央検査機関へ提出が必要であった細菌を謝って廃棄してしまった。

<図3 細菌検査一覧表>

治験 検査スケジュール ID: 種

詳細	スクリーニング	日数										EOT	中止/再取検査	TOC第1回 ~第18日	最終評価 第20日~第22日	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
尿遠心分泌物培養採取(一般細菌検査:血培)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
□ 提出																
□ 細菌室への連絡(菌)																
□ 培養結果の検出(菌) 菌数検部																
□ ISOLATE培養作成(菌)																
□ ISOLATE送付(菌)																
尿血遠心分泌物培養採取	○	○	○	○	○	△							△	△	△	△
□ 提出																
□ 細菌室への連絡(血培)																
□ 培養結果の検出(血培) 菌数検部																
□ ISOLATE培養作成(血培)																
□ ISOLATE送付(血培)																

○: 必須
△: 必要時

研修医レポート

臨床研修医

東 俊之介



こんにちは。研修医1年目の東俊之介と申します。

大分大学を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修医として勤務しております。私は高校生までは熊本で過ごしており、生まれ育った土地で研修できることを大変うれしく思い、これからどんどん貢献できていけたらと思います。

私は、4月は麻酔科から研修がスタートしました。最初は電子カルテの使い方や、検査のオーダーなどを覚えることや、麻酔時に使う薬、麻酔導入の手順など覚えることで精一杯でした。さらに、麻酔科は手技

を学ばせていただく機会が多く、気管挿管や静脈ルート確保、腰椎穿刺などを勉強させていただきました。何もわからない自分に指導医の先生やスタッフの方々が熱心に指導してくださり、何とか一通りこなせるようになりました。患者のバイタルサインなどの状態の変化に対して、自らで考えて対応する機会も多く、緊張感をもって研修することができたと思います。

現在は外科で研修を行っております。外科ですので毎日様々な手術を行っており、多くの手術に参加させていただき充実した研修を送っております。手術中にもかかわらず先生方は解剖や手術の利点など丁寧に教えてくださり、勉強になると同時に、もっと自分でも勉強しなければいけないと感じております。

救急外来の当直や、研修科のオンコールと忙しい日々ではありますが、先生方から熱心かつ丁寧なご指導をいただき、充実した研修を毎日送らせていただいております。もうすぐ研修医2年目となるので、さらに精進して1日1日を大事に研修していきたいと思っております。今後ご迷惑をおかけすると思っておりますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医

中村 貴久



こんにちは。研修医1年目の中村貴久と申します。

熊本大学を卒業し、昨年の4月から初期研修医として勤務しております。最初は分からないことだらけでしたが、毎日多くのことを学ばせて頂き、少しずつ業務にも慣れてきて、毎日の診療・業務にやりがいを感じながら研修をさせて頂いております。

私の研修は麻酔科から始まりました。麻酔科では麻酔管理や手技(末梢ルート確保、気管挿管、腰椎穿刺等)は勿論のこと、患者さんのバイタルの変化をモニターだけに頼るのではなく、自分の5感全てを使って感じるこの重要性を学ばせて頂いたことが印象的です。

循環器内科では心電図、心エコー、循環器の薬剤の使い分けなどを学ばせて頂くと共に、ACSという目の前で生命の危機に瀕した患者さんを救い、歩いて退院していくというプロセスに立ち会わせて頂き、大きな達成感を感じさせて頂きました。

呼吸器内科では抗菌薬や重症患者さんの全身管理、呼吸器管理などについて学ばせて頂くと共に、指導医の先生方とディスカッションを多く重ね、積極的に病棟業務や

治療に関わらせて頂き、まだまだ未熟ではありますが一人の医師として医療を行う自信を初めて得ることができた大変有意義な期間でした。

救急外来では救急患者さんのファーストタッチを担わせて頂き、診察を行って鑑別疾患を挙げ、検査をオーダーして診断を行っていくという一連の流れを研修医も中心となって行うことができました。また、重症患者さんの救命措置を経験し、学ばせて頂きました。

神経内科では脳血管障害から髄膜炎、脱髄疾患など、想像していたよりもかなり幅広い症例を経験させて頂きました。特に脳血管障害は今後の患者さんのADLに直接関わってくる疾患で、診断から治療方針決定、治療開始までがとてスピーディーでした。t-PAで閉塞血管が再開通して麻痺が改善する場面にも立ち会うことができ、貴重な経験をする事ができました。

現在は血液内科で研修させて頂いております。的確な治療選択、化学療法や造血幹細胞移植とその後の管理は、注意すべきパラメーターが多く、指導医の先生の着眼点を少しでも学ばせて頂こうと邁進しております。また、患者さんへのICや緩和ケアなど、日々の診療の中に学ぶことが多くあり、大変充実した研修を送ることができています。

まだまだ未熟で各方面でご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、一日一日成長していく所存ですので、今後も御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



研修のご案内

第19回 診断と治療—最新の基礎公開講座— [日本医師会生涯教育講座 2.5単位認定]

日時▶平成31年 2月16日(土) 15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：八木産婦人科医院 院長

水溜絵津子 先生

演題：「妊産婦の取り扱い」

1. 妊産婦の他科合併症

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長

西村 弘

2. 妊産婦の産科合併症

福田病院 院長

河上祥一 先生

3. 妊産婦の薬剤の使い方

慈恵病院 副院長

蓮田 健 先生

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第240回 月曜会(無料) (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成31年 2月18日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室 2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 超急性期にステント血栓症を来した急性右室心筋梗塞の一例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

長倉拓究

「第2症例 リンパ球増多の一例」

国立病院機構熊本医療センター血液内科

杉谷浩規

2. ミニレクチャー「消化器内科からの症例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

上野茂紀

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第165回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成31年 2月27日(水) 18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「頭部外傷、顔面外傷」

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長

大塚忠弘

国立病院機構熊本医療センター形成外科部長

大島秀男

症例呈示とミニレクチャーを用意しています。

全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)



2019
2月

研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研修室
1日(金)		
2日(土)	14:00~16:00 第288回 熊本県滅菌消毒法講座 「洗浄滅菌を取り巻く最新の話題」	15:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
3日(日)		
4日(月)		
5日(火)		
6日(水)		
7日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「救急外来における救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 橋本伸郎	
8日(金)		
9日(土)		
10日(日)		
11日(月)		
12日(火)		
13日(水)	18:30~19:45 第60回 熊本緩和ケアカンファレンス 「終末期患者の身体抑制について考える」	
14日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「形成外科と美容外科」 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 大島秀男 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会〈細胞診月例会・症例検討会〉	
15日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「医療費助成制度、B型・C型肝炎の抗ウイルス治療」
16日(土)	15:00~17:30 第19回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「妊産婦の取り扱い」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 八木産婦人科医院 院長 水溜絵津子 先生 (1) 妊産婦の他科合併症 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 西村 弘 (2) 妊産婦の産科合併症 福田病院 院長 河上祥一 先生 (3) 妊産婦の薬剤の使い方 慈恵病院 副院長 蓮田 健 先生	
17日(日)		
18日(月)		19:00~20:30 第240回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
19日(火)		
20日(水)		
21日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「救外での耳鼻咽喉科応急処置」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村尚樹 14:00~15:30 第71回 市民公開講座 「リンパ節腫脹について」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子 20:00~21:30 第80回 医歯連携セミナー 「薬剤関連顎骨壊死の現在」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健	
22日(金)		
23日(土)	18:30~ 第2回 開放型病院連絡会	
24日(日)	8:30~17:00 熊本県臨床細胞学会 学術集会・総会	
25日(月)		
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
27日(水)	18:30~20:00 第165回 救急症例検討会 「頭部・顔面外傷」	
28日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「知っておくと役に立つ眼科救急」 国立病院機構熊本医療センター眼科医長 榮木大輔	19:00~20:30 熊本脳神経疾患懇話会(研2) 「脳灌流画像の臨床応用」 熊本大学医学部附属病院画像診断・治療科 特任助教 上谷浩之 先生

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<https://kumamoto.hosp.go.jp>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519
連携室直通TEL(096)353-6693
連携室直通FAX(096)323-7601